



薩摩焼は、約400年前の1598年文禄・慶長の役で渡来した陶工たちによって始まりました。このうち、陶工・朴平意が串木野窯を開き、その後、苗代川（日置市東市来町美山）に移住します。荒木家は、この朴平意の末裔であり、私で15代目となります。戦時中は陶器の生産を止めていましたが、昭和27年、父幹二郎が23歳で「荒木陶窯」を再興し、私は40歳の時に(有)荒木陶窯の代表となりました。家業として陶芸の世界へ入ったのですが、大学では少し違う世界が見たかったので彫刻を専攻しました。すっかり彫刻の魅力に取りつかれてしまい、このまま帰らずに彫刻を続けたいと思った事もありました。それでも帰ってきたのは、父の陶芸を学びたいと思いがあったからです。東京で素晴らしい彫刻家の先生方のもとで真剣に学んだからこそ、ようやく父の仕事が理解できるようになりました。自分の中では、日本工芸会の正会員と日本陶芸美術協会の会員になろうと目標を立てていたのですが、懸命に頑張ったつもりです。その2つをクリアした頃ようやく父も褒めてくれるようになりました。あくまで薩摩焼の技術と伝統をベースに現代社会に作品を問うて行く、それが私の果たすべき役割だと思っています。



荒木陶窯外観

薩摩焼の歴史、これまでとこれから

有限会社 あらきとうよう 荒木陶窯

代表取締役 荒木 秀樹

(鹿児島県薩摩焼協同組合 理事長)

一方、今年5月に鹿児島県薩摩焼協同組合の理事長に就任いたしました。40窯の組合員は、それぞれが違う人生や目的を持って陶芸を行っております。このため、組合の運営にあたっては、①嘘偽りの無い仕事をして信頼のある組合ブランドを築くこと、②組合員全員に組合員であることの利益が公平に行き渡るようにすること、③組合員どうし相互の信頼関係を築き良き友人になってほしいと考えております。そして私自身は、私の言動や行いが組合員や鹿児島県全体の陶芸の振興になっているかどうかを考えて行かなければならないと思っています。

当組合では、毎年「薩摩焼フェスタ」を開催しています。第1回開催のときは、30歳で実行委員でした。58歳で理事長となった今、「薩摩焼」のブランド確立と需要拡大を目指して、薩摩焼フェスタを継続して、しっかりと開催していくことが大切だと考えています。

現在、陶磁器業界では販売低迷や県外商社との競合など課題は山のようにありますが、鹿児島県工業技術センターの皆様には、これまでと同様に新商品の開発・技術的アドバイスを含め、どうか暖かいご支援を心よりお願い申し上げます。



白薩摩作品